

令和元年度

学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

- 講座実施日／令和元年11月29日（金）
- アンケート実施日／事前アンケート：令和元年11月22日（金）
事後アンケート：令和元年12月6日（金）
- 対象／佐賀女子短期大学 地域みらい学科 1年生
- 人数／事前アンケート：86名
事後アンケート：95名

はじめに

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

今年度は、佐賀女子短期大学において、佐賀県内で働く社会人をパネリストに迎え、「わたしの未来を考える ～自分らしいキャリアを築くために～」のテーマでパネルトークを開催しました。

今回の特色として、講座の実施に当たり、佐賀女子短期大学から提案をいただき、講座の1週間前に自分の将来について考えるプレ授業を実施していただきました。プレ授業では、将来の人生設計についてアンケートを実施し、その結果を翌週の講座の中でフィードバックした後、パネルトークに臨んでもらいました。また、パネリストを選定する際には、参加学生の中に一定数の留学生もいることから、その点を考慮し、留学生のロールモデルとなる方をパネリストの一人に選びました。

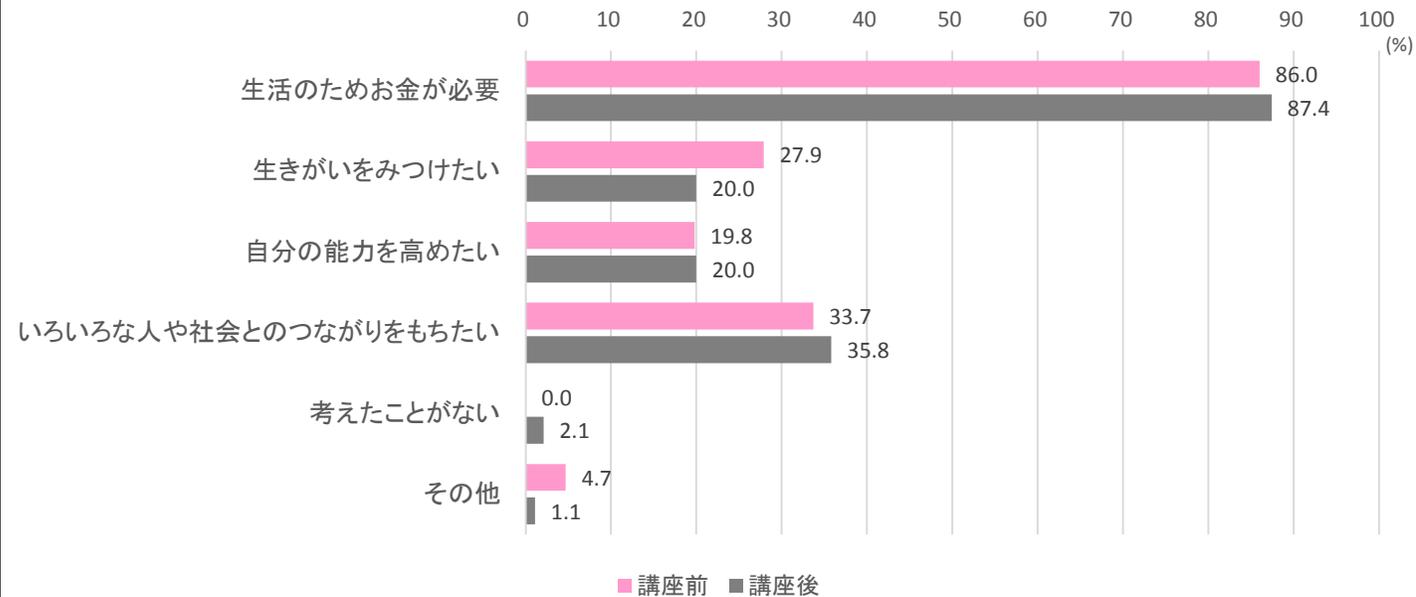
パネリストには、フィリピン出身で佐賀女子短期大学卒業後、長光園障害者支援センターで介護福祉士として働くカリーニョ・ウィリーザ・ボルンタテさん、リコージャパン佐賀支社でリーダーとしてチームスタッフをまとめ、家庭では2人の子どもの母親である田町幸子さん、自分のやりたいことをNPOとして立ち上げ、現在は公益財団法人佐賀未来創造基金の理事長として幅広い支援活動を行っている山田健一郎さんの計3名に登壇いただきました。また、コーディネーターは、佐賀女子短期大学の泉万里江さんに務めていただきました。

パネルトークでは、パネリストの学生時代の経験や職業選択の動機、仕事をしてみて感じていること、失敗や困難をどう乗り越えたか、ワーク・ライフ・バランスの実践等について、それぞれお話いただきました。パネルトークの後には、学生からの様々な質問に答えていただき、最後は各パネリストから学生に向けてメッセージを送っていただきました。

また、講座の前後には、講座に参加する前と後での意識の変化を見るために、アンケート調査を実施しました。

就職を数年後に控えた学生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や地域選択、女性の働き方等についての意識の変化をまとめましたので報告します。

問1 働く目的について、どのように考えるか。(複数回答可)



～問1「その他」の理由～

【事業前】

- ・働きたいから
- ・やりたいことをやるため
- ・自分の好きなことに使いたいから
- ・自分がしたい事をできるため

【事業後】

- ・好きな事をするため

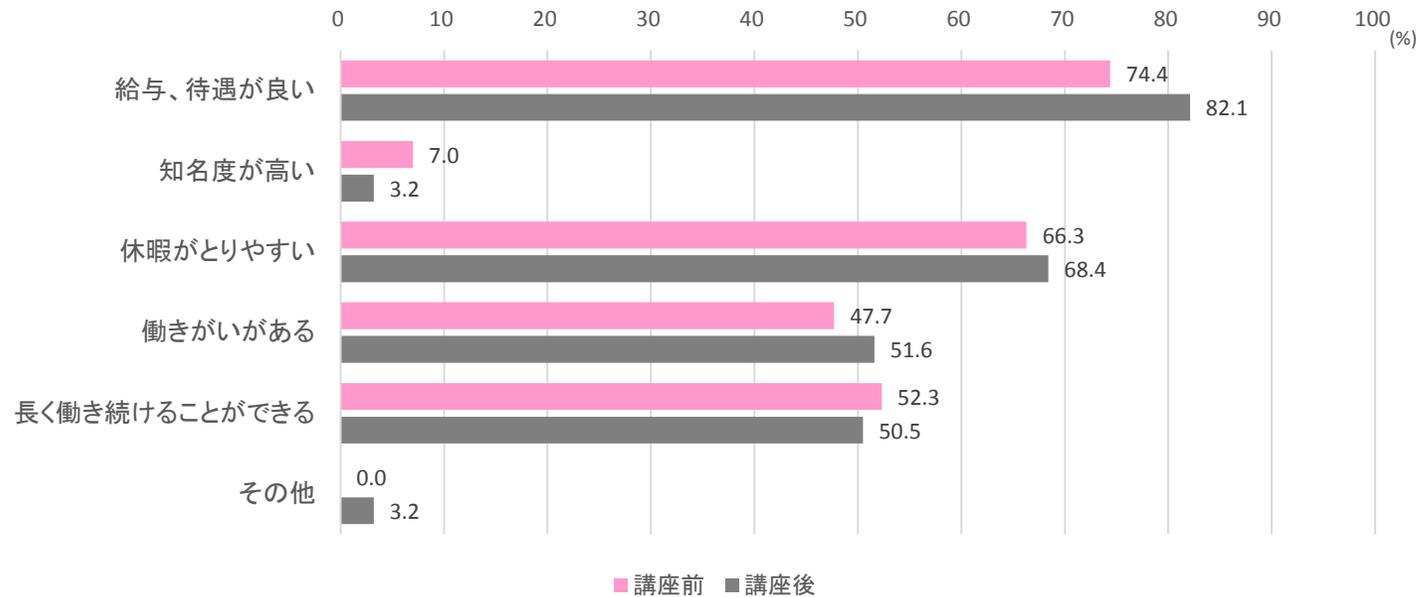
〔傾向〕

働く目的をたずねた結果をみると、「生活のためにお金が必要」が講座の前後で8割を超え最も多く、以下、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」、「生きがいを見つけたい」、「自分の能力を高めたい」等の順となっている。

講座前後の主な変化として、「生きがいを見つけたい」は27.9%から20.0%に減少し、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」は33.7%から35.8%に増加した。

また、その他の理由として、「好きなこと（やりたいこと）をするため」と答えた学生も複数みられた。

問2 就職先を選ぶ基準として何を重視するか。(複数回答可)



～問2「その他」の理由～

【事前アンケート】

記載なし

【事後アンケート】

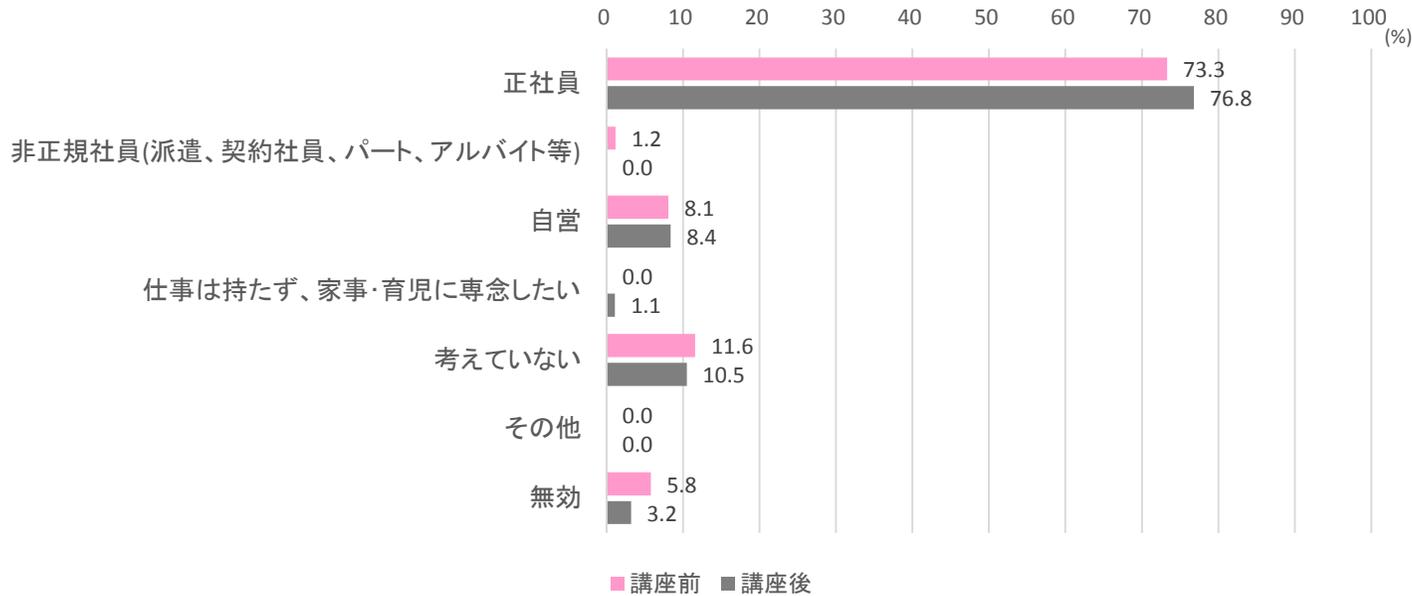
- ・どんな人がいるか
- ・自分が働きたい職業
- ・自分がやりたいと思う仕事、好きなこと

〔傾向〕

「就職先を選ぶ基準として何を重視するか」の問いでは、「給与・待遇が良い」と回答した割合が最も多かった。以下、「休暇がとりやすい」、「長く働き続けることができる」、「働きがいがある」等の順となっている。

また、講座前後の主な変化として、「給与・待遇が良い」は74.4%から82.1%に、「働きがいがある」は47.7%から51.6%に増加した。一方、「知名度が高い」は7.0%から3.2%に減少した。

問3 働くときには、どのような形態を選ぶか。



～問3「その他」の理由～

【事業前】

記載なし

【事業後】

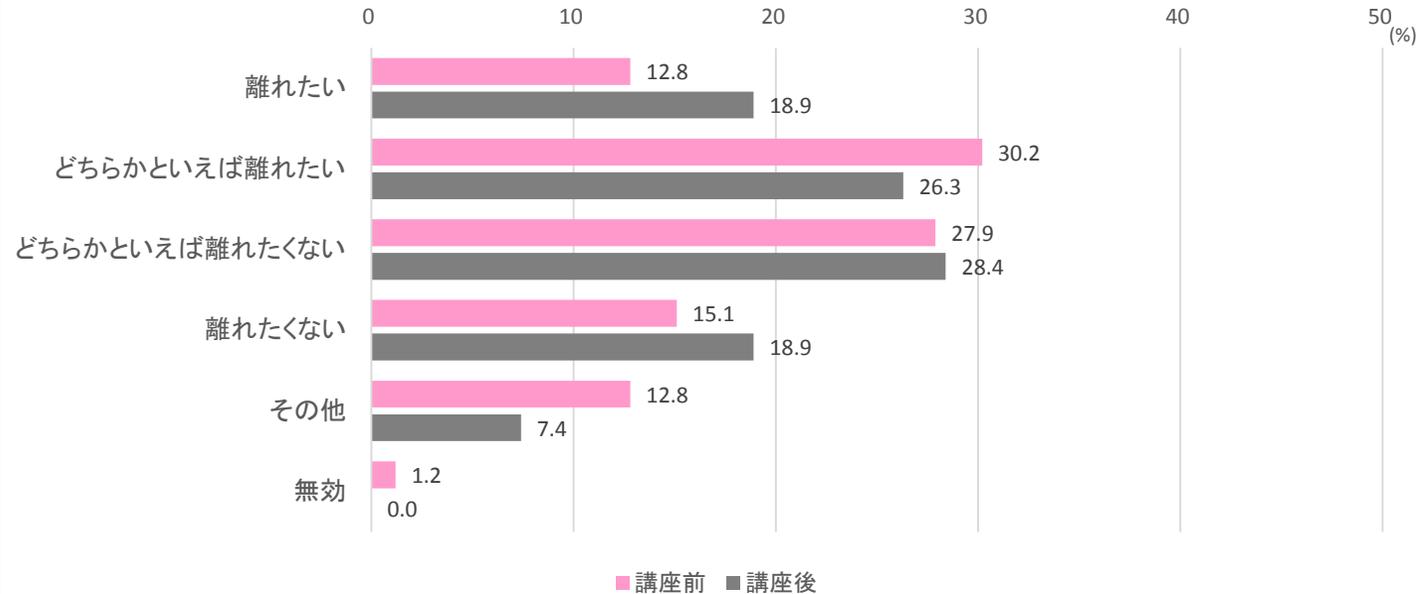
記載なし

〔傾向〕

働くときの形態は、「正社員」と回答した割合が講座の前後で7割を超えていて最も多く、講座後はさらにその割合が増加した。

講座前後の主な変化として、「非正規社員」は1.2%から0%に、「考えていない」は11.6%から10.5%に減少した。

問4 働くときには地元を離れたいか。



〔傾向〕

「働くときには地元を離れたいか」の問いでは、講座の前後で「どちらかといえば離れたい（または離れたくない）」と回答した割合が最も多く、講座前後の割合の合計は、「どちらかといえば離れたい」（計56.5%）、「どちらかといえば離れたくない」（計56.3%）で、ほぼ同じ割合であった。

講座前後の主な変化は、「離れたい」が12.8%から18.9%に、「離れたくない」も15.1%から18.9%に増加した。

また、「その他」の理由として、「まだ分からない」等の回答が複数みられた。

～問4「その他」の理由～

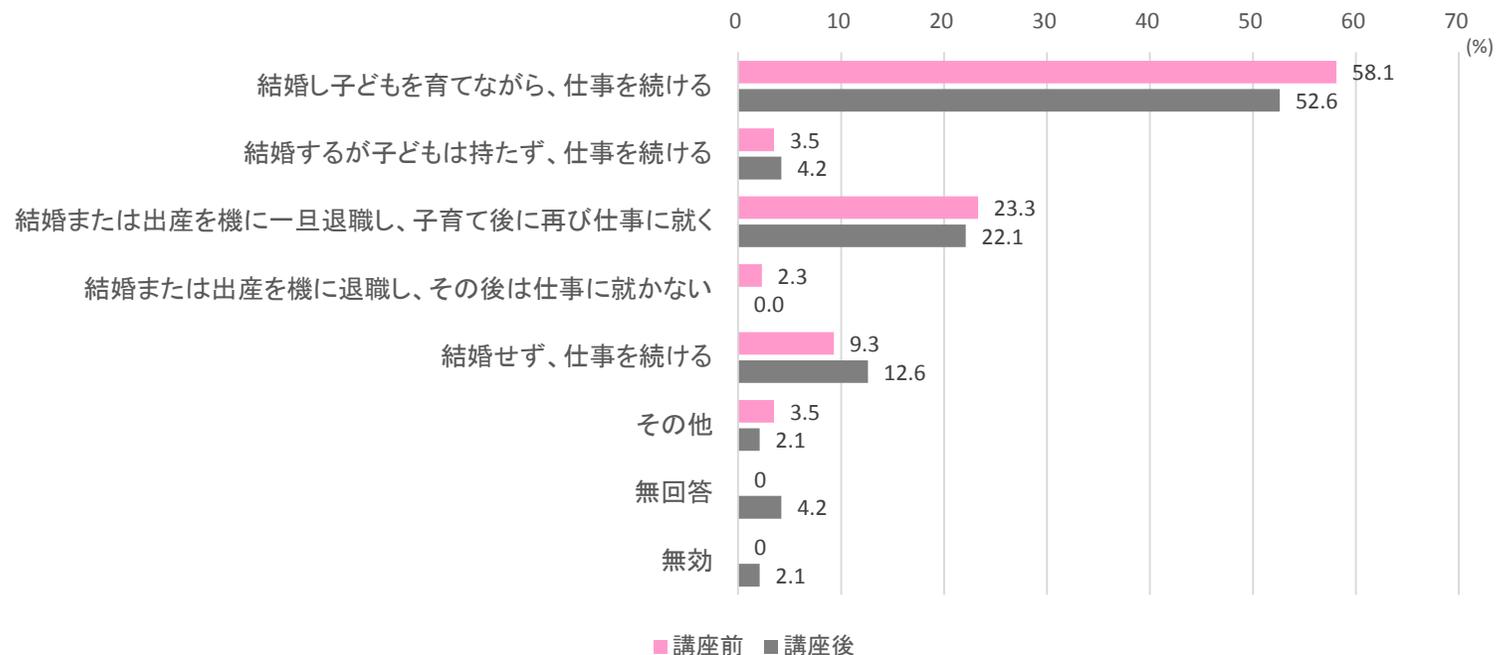
【事前アンケート】

- ・まだ分からない
- ・どちらでもよい
- ・離れてもいいが家から行くことができる所がいい
- ・まだ決めれない
- ・まだ考え中
- ・7年くらい日本で働いて母国に帰る
- ・決められている
- ・どっちつかず

【事後アンケート】

- ・どちらでもよい
- ・7年間を日本で働いてそのあとは地元に帰る
- ・家から行ける範囲ならどこでもいい
- ・仕事による
- ・まだ分からない

問5 女性の働き方について、次のどの考えにもっとも近いか。



～問5「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・ある程度の年まできたら退職

【事後アンケート】

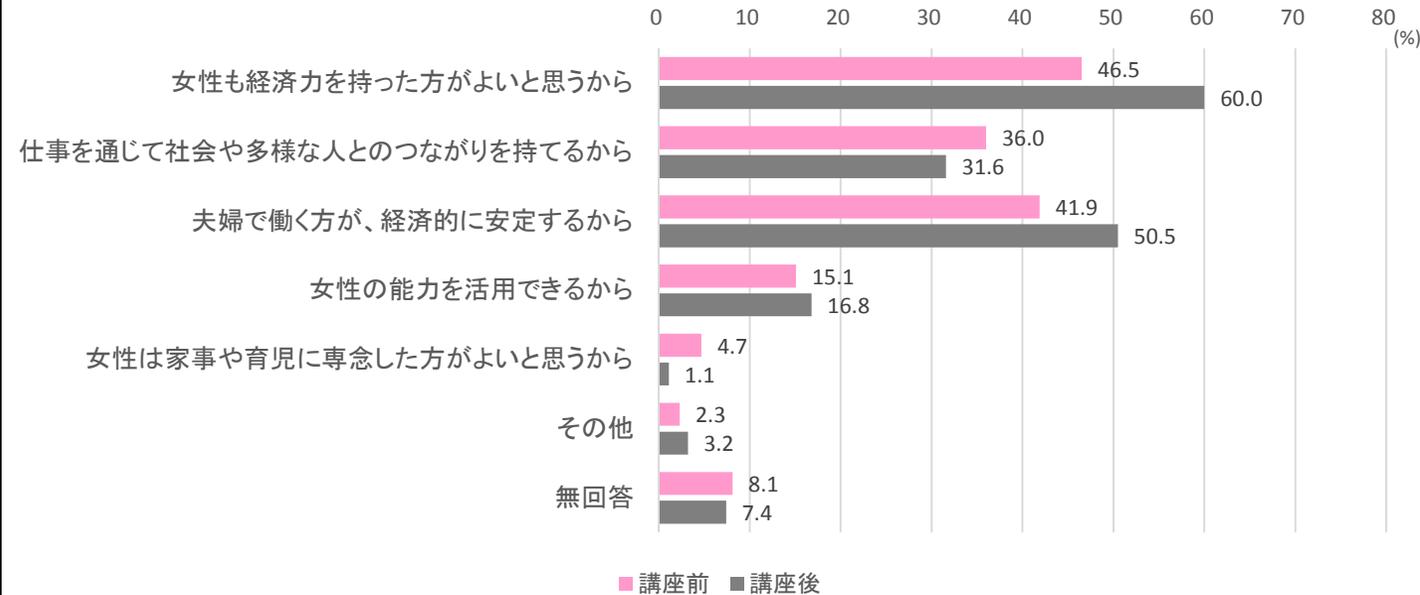
記載なし

〔傾向〕

女性の働き方の問いでは、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」と回答した割合が最も多く、講座の前後で5割を超えた。以下、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」、「結婚せず、仕事を続ける」等の順となっている。

講座前後の主な増減として、「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」は58.1%から52.6%に、「結婚または出産を機に退職し、その後は仕事に就かない」は2.3%から0%に減少した。一方で、「結婚せず仕事を続ける」は9.3%から12.6%に増加した。

問6 女性の働き方について、問5の回答のように考えるのはなぜか。(複数回答可)



～問6「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・結婚する必要性を感じないから
- ・夢を叶えたいから
- ・自由に暮らしたいから

【事後アンケート】

- ・もし、万が一の時があったら必要だから
- ・就きたい職業があるから
- ・結婚、子どもに関心がないから

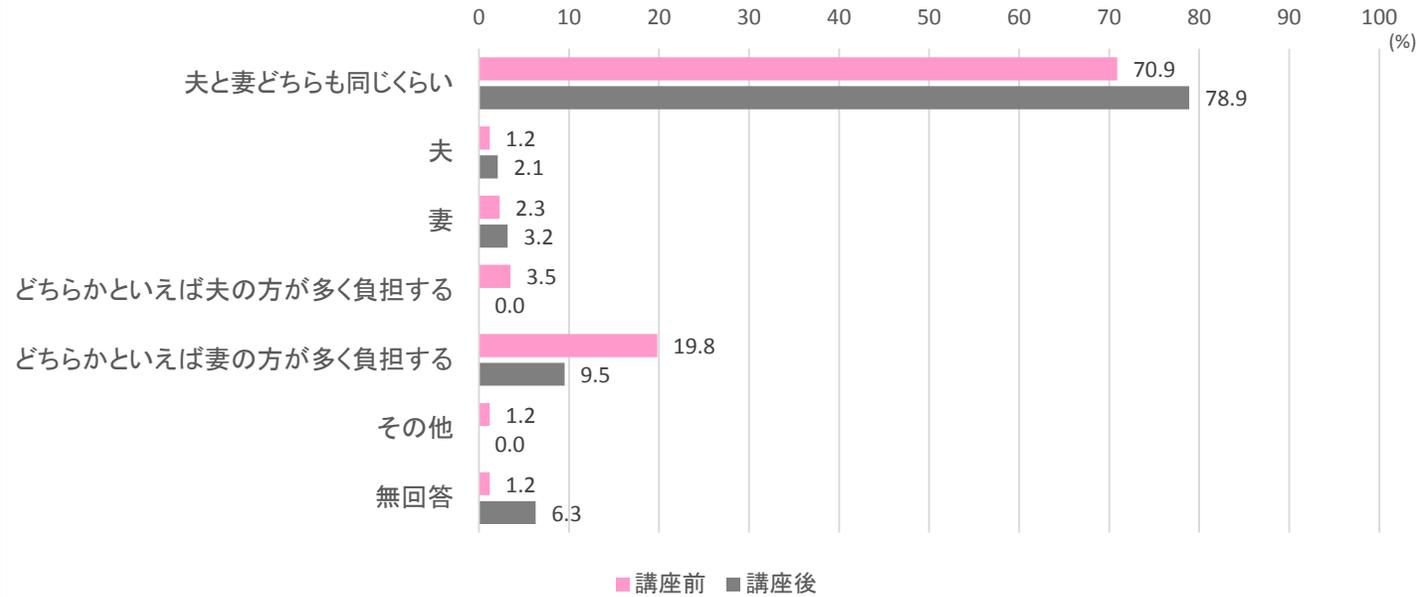
〔傾向〕

問5の女性の働き方の考えの理由として、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」と回答した割合が最も多く、以下、「夫婦で働く方が経済的に安定するから」、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」等の順となっている。

講座前後の主な増減として、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」は46.5%から60%に、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」は41.9%から50.5%に増加した。

また、「その他」の理由で、結婚への関心が低いことを示す回答がいくつか見受けられた。

問7 結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か。



～問7「その他」の理由～

【事前アンケート】

・結婚しない

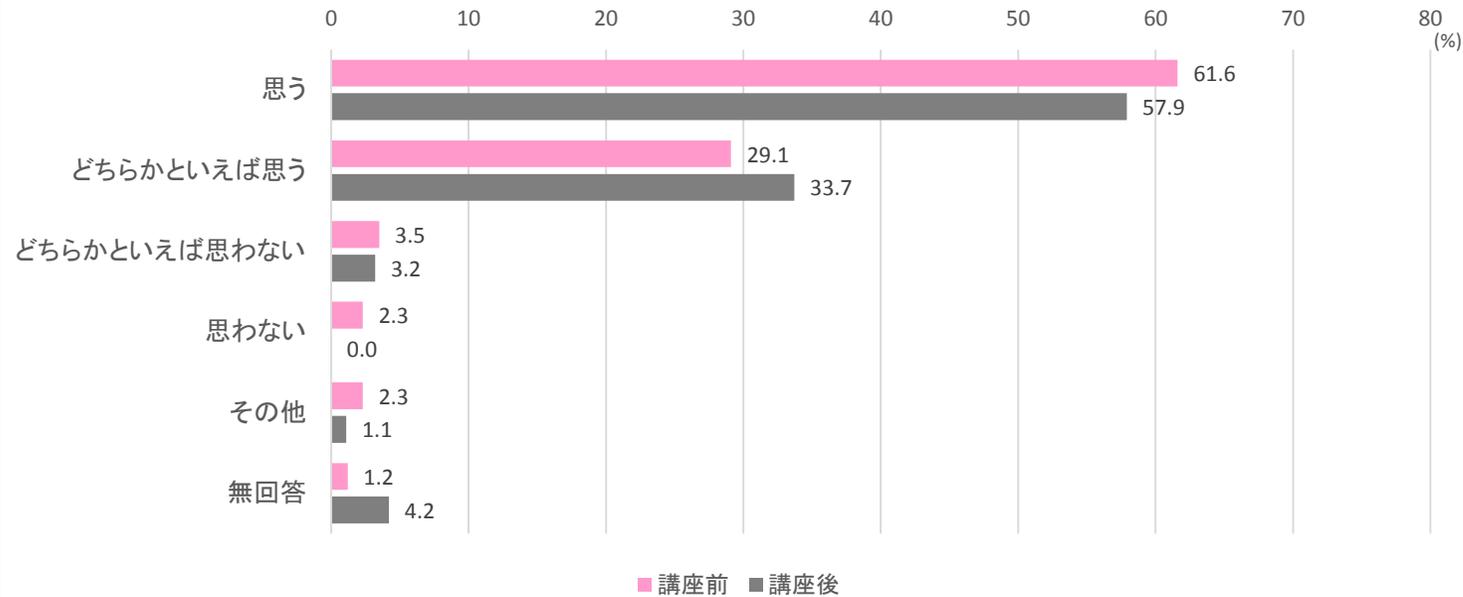
【事後アンケート】

記載なし

〔傾向〕

結婚後の家事分担については、「夫と妻どちらも同じくらい」と回答した割合が最も多く、講座の前後で7割を超えた。講座前後の主な増減として、「どちらかといえば妻の方が多く負担する」は、19.8%から9.5%に減少し、「夫と妻どちらも同じくらい」は、70.9%から78.9%に増加した。

問8 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか。



～問8「その他」の理由～

【事前アンケート】

- ・どちらでもいいと思う
- ・興味がない

【事後アンケート】

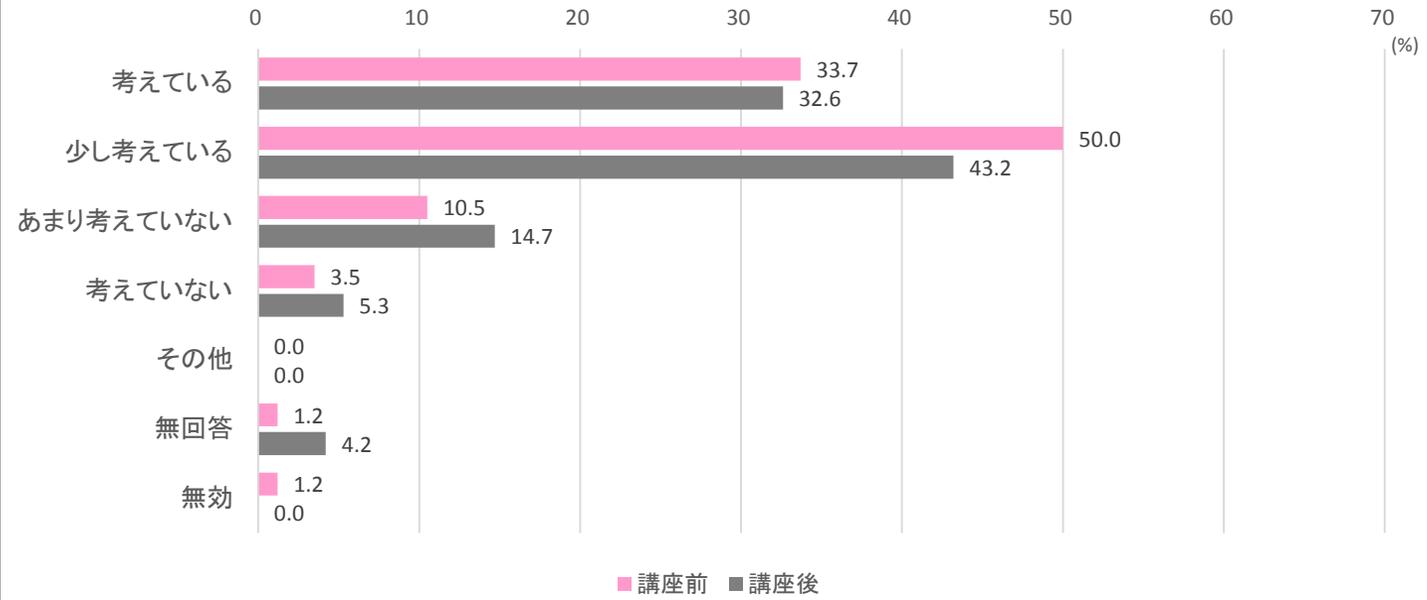
- ・増えてどうなるのか分からない

〔傾向〕

「あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、「思う」と回答した割合が最も多く、講座の前後で5割を超えた。

講座前後の主な増減として、「どちらかといえば思う」は29.1%から33.7%に増加し、「思う」は61.6%から57.9%に、「思わない」は、2.3%から0%に減少した。

問9 将来に向けて、今何をすべきか考えているか。



～問9「その他」の理由～

【事業前】

記載なし

【事業後】

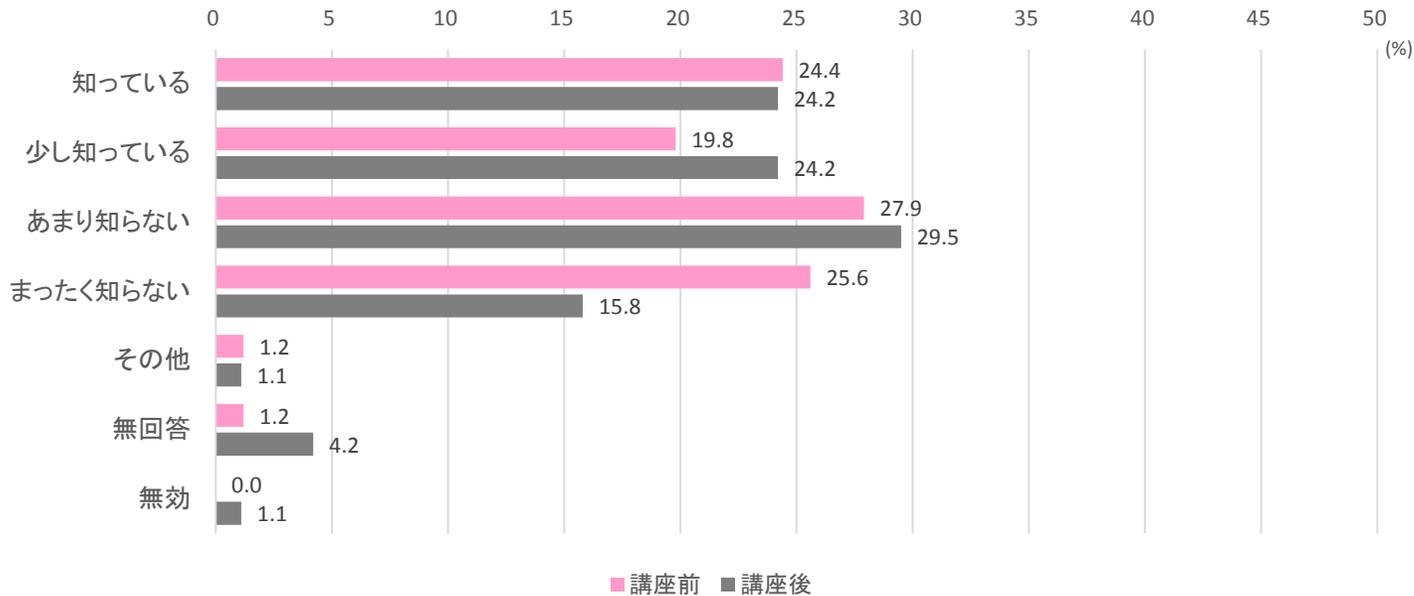
記載なし

〔傾向〕

「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、「少し考えている」と回答した割合が最も多く、以下、「考えている」、「あまり考えていない」等の順となっている。

講座前後の主な増減として、「少し考えている」は50.0%から43.2%に減少し、「あまり考えていない」は10.5%から14.7%に増加した。

問10 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか。



～問10「その他」の理由～

【事業前】

- ・今は考えられない

【事業後】

- ・多分知っている

〔傾向〕

ワーク・ライフ・バランスについての問いでは、講座前は「あまり知らない」「まったく知らない」の合計（53.5%）が、「知っている」「少し知っている」の合計（44.2%）を上回っていたが、講座後には「知っている」「少し知っている」の合計（48.4%）が、「あまり知らない」「まったく知らない」の合計（45.3%）を僅かではあるが上回った。

今回、「学生への意識啓発事業」の講座の前後に実施したアンケートの結果から、佐賀女子短期大学の学生の意識変化について、以下のとおり推察しました。

問1「働く目的」では、「生活のためにお金が必要」と答えた学生が最も多く、多くの学生が「生きるために働く」という意識を持っていることがうかがえます。また、講座後の変化の一つとして、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたい」の回答が増えていますが、これは、人との出会いや繋がることの大切さについてパネリストから学んだことが、背景にあるのではないかと考えます。

問2「就職先を選ぶ基準」では、給与や待遇面、休暇の取りやすさなどが重視されていますが、講座後には働きがいについても重視する割合が増えました。これは、パネリストが自分のやりたいことに向けて努力し、やりたいことを職業として実現されていたことから、就職先を選ぶ基準として、単にお金や休みだけで選ぶのではなく、働きがいについても重視する割合が増えたのではないかと考えます。

問3「働くときにはどのような形態を選ぶか」では、「正社員」を選択した割合が最も多く、多くの学生が安定した形態を望んでいることがわかります。また、講座後には「非正規社員」を希望する割合はゼロとなり、「考えていない」の回答も減る結果となりました。これは、講座を機に自分の将来について考える学生が増えたことで、安定を求める割合がさらに増えたものと考えます。

問4「働くときには地元を離れたいか」では、講座後には「離れたい」「離れたくない」の両方とも増加する結果となりました。これは、講座前は「どちらかといえば離れたい（離れたくない）」の曖昧な考えだったのが、パネリストから働く現状を聞くことで、明確な回答に移行したのではないかと考えます。また、一方では「まだ分からない」等の回答が複数みられ、就職先が決まらなると現時点では判断できないこともうかがえます。

問5「女性の働き方に対する考え」、また、その理由（問6）では、「結婚し子どもを育てながら仕事を続ける」の回答が最も多く、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が次に続きました。主な理由として、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」「夫婦で働く方が経済的に安定するから」等が選ばれており、これは、パネルトークを通して仕事と子育ての両立について学んだことで、両立する可能性を見出してもらえたのではないかと考えます。また、一方で、1割以上の学生が「結婚せず仕事を続ける」と回答しており、その理由として、「結婚する必要性を感じない」「自由に暮らしたい」「結婚・子どもに関心がない」等が挙げられていました。このような背景には、昨今の女性のライフスタイルの多様化や、結婚に対してメリットが見出せないこと等が要因として挙げられるのではないかと考えます。

問7「結婚後の夫婦の家事分担」では、「夫と妻どちらも同じくらい」の回答が多数を占めており、講座後のアンケートではさらにその割合が増えました。また、「どちらかといえば妻の方が多く負担する」の回答は、講座後には減少しました。これは、夫婦で家事分担をしながら、仕事と家庭生活を両立されている様子をパネリストから学んだことで、これまでの「家事＝女性の役割」のイメージが軽減されたからではないかと考えます。

問8「あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、講座の前後で「思う」が過半数を超えました。また、講座後には「どちらかといえば思う」は若干増え、「思わない」はゼロとなり、大半の学生が役職に女性が増えることを望んでいることがわかります。

問9「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、「少し考えている」も含め大半の学生が考えており、今回の講座に参加したことで、将来について、より具体的に考えるようになったのではないかと考えられます。

問10「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、講座前は「まったく知らない」が25%を超えていましたが、講座後は15%程度にまで減少しました。これは、パネルトークを通して、ワーク・ライフ・バランスを実践することの大切さについて理解いただけたことが、認知度の向上に繋がったのではないかと考えます。

今回は、プレ授業を経て本講座に参加してもらったことで、自分の将来について、よりイメージがしやすかったのではないかと思います。また、留学生のロールモデルとなるようなパネリストの選定をしたことで、より多くの学生にとって今後の参考になったのではないかと思います。

今回の講座では、職種やキャリア、国籍、年代等それぞれ異なるパネリストの生き方や働き方を学ぶことで、学生が希望する職業や目標に向けて、これから何をすべきかを具体的に考える機会を提供できたのではないかと考えます。